

強制動員真相究明

ネットワークニュース No.16 2020年3月16日

.....

編集・発行：強制動員真相究明ネットワーク

(共同代表／飛田雄一、庵途由香 事務局長／中田光信 事務局次長／小林久公)

〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (公財)神戸学生青年センター内

ホームページ：http://www.ksyc.jp/sinsou-net/ E-mail：mitsunobu100@gmail.com (中田)

TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 (飛田) 郵便振替<00930-9-297182 真相究明ネット>

<目 次>

<第13回研究集会予告>

▽地域から戦争と平和・人権を考える機会に一『平和と人権とやまガイド』を作成して

富山県歴史教育者協議会 松浦晴芳 -2-

▽黒部発電工事と朝鮮人

コリア・プロジェクト@富山 堀江節子 -3-

▽不二越女子勤労挺身隊訴訟 闘いの報告

不二越強制連行・強制労働訴訟を支援する北陸連絡会事務局 中川美由紀 -4-

名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊問題の解決を！金曜行動 500 回

強制動員真相究明ネットワーク会員 竹内康人 -5-

歴史修正主義者の国際連帯ー「反日種族主義」が投げかけるもの

日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 中田光信 -7-

第13回強制動員真相究明全国研究集会案内

一日目 「語りつぐ強制連行の歴史」 -10-

二日目 フィールドワーク -11-

地域から戦争と平和・人権を考える機会に

—『平和と人権とやまガイド』を作成して

富山県歴史教育者協議会 松浦晴芳

富山県歴史教育者協議会と治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟富山県本部は、2011年8月に『平和と人権とやまガイド』を刊行しました。その趣旨は、「はじめに」にある文の通りです。

このガイドは、中学・高校生をはじめ広く県民を対象に、平和・人権の視点から、県内にある近現代の旧跡や石碑などを紹介したものです。

日本は、明治初期からアジア太平洋戦争に至るまで、侵略戦争を推し進め、近隣諸国を植民地にしました。国内では民主主義や平和を求めた民衆の運動を抑圧する、暗い政治が長く続きました。戦後こうした歴史の反省の上に、「戦争放棄・戦力不保持」の9条や、言論・結社の自由などの基本的人権を規定した新しい憲法が公布されました。しかしながら、憲法の理念と日本の現実との間に、いまだに大きな隔たりが生じています。

教育の場では、いま偏狭な「愛国心」を押しつけるような動きもみられますが、それが隣国との友好を妨げるものであってはなりません。また為政者中心に書かれたガイドブックに比べ、地域に暮らす庶民の目線で作られた出版物は多くありません。この度、『平和と人権とやまガイド』を発刊した理由でもあります。

このガイドを通して、戦争の愚かさや人権の尊さを実感していただき、平和で民主的な社会を築いていくきっかけにいただけたら幸いです。

このたび、本富山集会にあわせ、増補改訂版を発行します。



黒部川電源開発と朝鮮人

● 1920 年前後から土木労働者が多数来県

富山県は急峻な山々に源を発する清流が大小 300 あまりの河川となって流れる。いずれの川も雪融けの春先や強雨となれば洪水となり、1920 年前後から河川改修や道路工事、植林事業などに朝鮮人労働者が来県している。大正期に入って電源開発が進むにつれ一気にその数が増えた。なかでも県東部を流れる黒部川上流の電源開発は、未踏の溪谷に調査用登山道、建設資材運搬用軌道を敷設し、上流へと発電所とダムを次々と建設していったが、黒部では労働者の三分の一が朝鮮人だったといわれる（根拠は明らかではない）。彼らは高い報酬を求めて、危険な仕事を請け負った。



昨年 4 月末末、一旦場所がわからなくなっていた「呂野用墓」を竹内さんが見つけ出した。

● 黒部川電源開発

1936 年から 1940 年にかけて「黒部第三ダム・発電所」工事が行われた。年間 4000 ミリの雨量に加えて、5 ヶ月間は深い雪に覆われる。冬期から春にかけて雪崩事故が多発し、朝鮮人にも多くの犠牲者を出した。「水平歩道」は、V 字谷の切り立った崖の中腹を一人一人が辛うじて通行できる高さと幅をくり貫いた道や崖に数本の丸太を番線で縛り付けた栈道である。川ははるか数十メートル下、場所によっては百メートルを超える。ボッカは百キロもの資材を担いで運んだが「黒部ではケガ人が出ない」と現在もいわれている。また、高熱隧道工事では、岩盤温度がダイナマイトの発火点を超える 160 度以上もあった。調査不足、ルート変更不能、昼夜作業敢行の突貫工事、人命無視の作業計画などで元佐藤工業黒三工事事務所長によれば、第 1 と 2 工区だけでも 233 人、全工区の犠牲者は 300 人を超えた。このように多数の犠牲者を出しながら、下賜金を出しても国策事業として関西の軍需産業のため、戦争のため工事は強行された。

● 「黒三」を完成？させた金泰景

吉村昭の歴史小説『高熱隧道』に朝鮮人労働者は描かれていない。だが、上記の隧道工事を引き受けた朝鮮人飯場頭は金泰景だった。済州島出身で隧道工事を専門にする一方、事故補償や賃上げ交渉し、ときにはストライキも辞さない太っ腹な親方だった。あまりに貧しい同胞の生活に内鮮労働親愛会宇奈月支部を立ち上げるが、内部の非合法グループとともに検挙される。1 年半後に起訴猶予で出所、直後に高熱隧道の工事を引き受け、多くの犠牲者を出しながらも完成する。朝鮮人がいなければ「黒三」は完成しなかったといわれる由縁である。その功績により組を起し、地下工場工事を多数担った。

1945 年、解放後の 11 月には済州島に帰る。四・三事件では、親日派として投獄されていたおかげで命拾いし、やがて済州空港の建設に関わったと聞く。30 年ほど前に聞き取りをした娘と息子は亡くなったが、この 2 月に 3 人の息子が生存していることがわかった。「金本のオヤジ」と呼ばれた男性の帰国後を知りたいと 3 月に訪韓する予定にしていたが、新型コロナウイルス肺炎の影響で行けなかった。早期に終息すれば、5 月の集会で報告したい。

なお、30 年前に地元の女性 3 人で『黒部・底方の声』を書いたが、これを韓国の 3 人の女性が朝鮮語に翻訳した。近日の出版を期待したい。

(堀江節子／コリア・プロジェクト@富山)

不二越女子勤労挺身隊訴訟 闘いの報告

不二越強制連行・強制労働訴訟を支援する北陸連絡会
事務局 中川美由紀

富山県の工作機械メーカー不二越は、戦時中、小学校卒業前後の13～15歳の少女たちを「女学校に行ける」「お金ももらえる」「お花やお茶も習える」などと騙し、朝鮮半島から女子勤労挺身隊1098名（男子徴用工540名）を動員し、強制労働をさせました。

1992年から始まった不二越訴訟は、現在、韓国で1～3次訴訟が闘われ、2019年、いずれも控訴審判決で原告が勝訴しました。原告たちは一日も早い賠償を求め、大法院判決を待たずに不二越の資産を差し押さえ、現金化の手続きに踏み切りました。現在、大法院判決を待っている状態です（ソウル、光州で各1人ずつ追加提訴しています）。



第12愛国寮の前で、舎監に出勤前のあいさつをしている。
逃亡防止のため点呼を行い、行進して職場との間を往復した

昨年、日本政府が経済制裁を強行したことで、「日韓関係は最悪」と言われる状況になりました。しかし、実際には日本での影響がより深刻で、政府は発動した制裁をどう収めるのか、政治的判断を迫られているのが現状だと考えます。そして、同様に、この間の不二越の対応も「強制労働の事実はないと一貫して主張している」と言いつつ、実際には政府と原告たちの間で非常に苦慮している様子がうかがえます。

90歳近く高齢となった原告たちは来日することはできなくなっています。嫌韓報道が蔓延する中で、地元マスコミは被害者の声を伝えようと、韓国への同行取材を元にドキュメント番組を制作しました。全国放送でNNNとTBS(予定)放映されました。マスコミの影響は大きく、不二越女子勤労挺身隊問題が、富山県民にとっても注目と感心を集める課題となっています。

昨年、訪韓してお会いした原告たちの声の紹介と、昨年の活動の報告を中心に不二越女子勤労挺身隊問題の現状について報告したいと思います。



名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊問題の解決を！金曜行動 500 回

強制動員真相究明ネットワーク会員 竹内康人

●外務省前行動

2020 年 1 月 17 日、名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊動員被害の解決をめざす金曜行動が 500 回を迎えた。朝、8 時 30 分、東京霞が関の外務省前に「三菱重工は元挺身隊員 280 余名に未払い賃金を支払え、74 年間放置したことに対しても謝罪と賠償せよ、韓国大法院判決に従い、原告に 1200 万円を支払え」などと記された横断幕を掲げ、60 人余りが集まった。



集会では、はじめに名古屋三菱訴訟を支援する会が行動を提起し、三菱長崎と三菱広島訴訟の会、不二越訴訟の会、日韓共同行動、真相究明ネットワーク、過去清算共同行動などが連帯の挨拶をおこなった。この日の行動には韓国の光州から市民の会の 20 人も参加し、原告の梁錦徳さんが「アベは謝罪せよ」と声をあげた。

参加者は日本政府による強制労働の否認と訴訟解決への妨害に抗議し、日本政府自身が責任をとり、問題解決に向けて協議すべきと訴えた。日本政府に対する要請書は、日本政府による強制動員の事実の認定と謝罪、その歴史の後世への継承、そして、個人請求権の存在をふまえ日本企業と被害者間の協議を妨害せず、その合意を尊重することを求めるものである。

●三菱重工本社前行動

10 時 30 分には、丸の内の三菱重工業本社前に集まり、三菱は判決を履行せよ！謝罪・賠償せよ！とアピールした。長崎、広島、名古屋、東京などの支援者の発言の後、韓国のグウォンさんが「ニムの行進曲」、原田義雄さんが「フライデーレポート」を歌った。



この日、三菱は 9 年半ぶりに原告と会い、直接、要請書を受け取った。その席で、原告の梁さんは一刻も早い解決を求め、「何もしないなら、私の涙は川となり、その



川に船を浮かべ、世界に怒りを発信する。生きているうちに謝罪と賠償を」と語った。支援の会も「企業は 100 年続く、判決をふまえ恥ずかしい対応が求められる。協議を再開して解決を」と呼びかけた。

要請書は、名古屋、広島などの三菱訴訟の弁護団と支援する会の計 8 団体によるものであり、名古屋と広島の動員被害者の尊厳回復のために、判決をふまえて被害者側との協議を再開することを求めるものであった。それは、三菱による大法院判決以後の判決否認と対話の拒否が日韓関係

悪化の原因であり、日本政府による妨害に屈せず人権回復をすすめることが大切である、人権回復という普遍的価値に反することを続ければ、三菱は市場で安定した地位を得られないとし、協議への参加を呼びかけるものだった。

●金曜行動 500 回特別集会

この日の夜には、金曜行動 500 回特別集会がもたれ、100 人が参加した。集会では、名古屋三菱訴訟の弁護団と支援する会から、名古屋訴訟の経過、2007 年からの金曜行動、韓国光州での勤労挺身隊ハルモ二と共にする市民の会の結成と支援条例の制定、韓国大法院判決後の活動などが話された。三菱名古屋訴訟の経過をまとめた映像も紹介された。

続いて韓国の市民の会、強制動員と過去清算のための共同行動からの連帯の挨拶がなされた。最後に「心配しないであなた」などが歌われ、安倍政府による歴史の歪曲に屈せず、企業を和解協議に応じさせ、この問題解決に向けて力を合わせていくことを誓った。

●諦めない行動が解決の扉を開く

名古屋で動員された朴海玉さんの証言を聞いたのは 1998 年 5 月のことである。証言では、全羅南道からの少女の連行、強制労働の実態と地震と空襲を経ての富山への移動、解放後の精神的苦しみや「慰安婦」との混同の問題点が示された。印象に残る集会であり、その後、裁判闘争がはじまった。当時、静岡では、東京麻糸紡績沼津工場への朝鮮女子勤労挺身隊の裁判があり、支援していた。東麻裁判は敗訴したが、継承企業の帝人はわずかではあるが解決金を支払った。



名古屋三菱では敗訴しても、金曜行動が取り組まれ、闘いが継続された。そして、2018 年 11 月、韓国大法院で勝訴し、原告が正義を回復する状況が生まれた。諦めない行動が解決の扉を開いたのである。500 回金曜行動の要請書にあるように、三菱が判決を受け入れれば、済むことである。それを実現させることができていない、この状況を変えなければならないと思う。

金曜に東京に出る折は、品川での三菱金曜行動に参加した。その際の「大きなのっぽの古時計」のメロディでの歌。

政府と企業が企んで 強制労働 / 学校でたての少女を 朝鮮から連行
空襲や地震で苦しみ 帰国しても差別され / でも今は立ち上がり 正義を求める
三菱はやく、賠償！賠償！ / 三菱はやく、賠償！賠償！ / はやく賠償することが優良企業
大きな態度の三菱、戦前と同じ / 裁判で負けても賠償を拒む
兵器をつくり金儲け 働く者に冷たい / 今もまだ変わらない その企業体質
三菱はやく、賠償！賠償！ 三菱はやく、賠償！賠償！ / 戦争責任とるのが 優良企業

※『調査・朝鮮人強制労働④軍需工場・港湾編』(社会評論社 2015 年)と『韓国徴用工裁判とは何か』(岩波書店 2020 年)に、三菱名古屋の事例についても記したので、ご一読を。



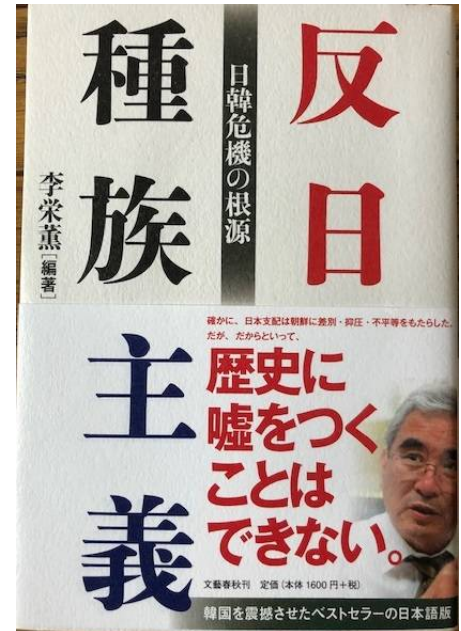
歴史修正主義者の国際連帯－「反日種族主義」が投げかけるもの

日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 中田光信

はじめに

昨年7月、元ソウル大学教授の李栄薫（イヨンフン）氏の編著「反日種族主義－日韓危機の根源－」が韓国で発売されるや否やベストセラーとなり日本語版も40万部のベストセラーを記録し今も書店に山積みされている。韓国の「ニューライト」を代表する彼は「大韓民国の初代大統領・李承晩の一生を再評価し、彼の理念と業績を広く知らしめすために設立」された韓国の「反共」政権の象徴である李承晩（イスンマン）を賛美する李承晩学堂の校長を勤める。

1987年の「6月民主抗争」を契機に民主化への道を歩みだした韓国社会は時の権力がもたらした「不正義」の「清算」を掲げた。それは光州の民主化運動の犠牲者への補償から100年以上も前の「東学党」を巡る弾圧事件の真相究明、四・三事件や民主化抗争時の「疑問死」事件、在日良心囚問題にまで及ぶ。そして2003年2月に成立した盧武鉉（ノムヒョン）政権は過去のこれら数多くの民衆弾圧についての真相究明、人権侵害に対する補償や名誉回復措置の基礎となる「真実・和解のための過去事整理基本法」を制定した。その一環として日本の植民地支配の犠牲となった強制動員被害者救済のため「日帝強占下強制動員被害真相糾明等に関する特別法」（2004年）「太平洋戦争前後の国外強制動員犠牲者等の支援に関する法律」（2007年）を制定し強制動員被害の真相究明と被害者への支援を行った。そして李明博（イミョンバク）、朴槿恵（パククネ）の保守政権を経て2017年5月ロウソク革命で誕生した文在寅（ムンジェイン）政権も過去の独裁・保守政権の数々の「積弊清算」を四大政策のひとつに掲げた。このような過去の国家権力による暴力を徹底追求する民主化の流れに危機感を抱いた保守層の巻き返しとして現れたのが「ニューライト」と呼ばれる人たちの活動だった。彼らはいわゆる「親日派」を擁護するために「植民地近代化論」を掲げて歴史を歪曲して日本の植民地支配を正当化・美化する「高等学校の韓国史教科書」をつくり教科書検定を通過させ、朴槿恵政権において教科書国定化を図ろうと日本の「つくる会教科書」と瓜二つの運動を展開したが反対運動の前に国定教科書は日の目を見なかった。この「ニューライト」を代表する一人が李栄薫氏である。



この本の成り立ち

この本の日本語版の前書きには「韓日自由市民の連帯は、北朝鮮に、さらに中国に、自由民主主義を普及させていく堡壘としてもその役割を果たすことでしょう」また「韓国版の企画段階からそのような提案（日本語版の出版）をされてこられた産経新聞社の久保田るり子記者（編集委員）の役割が重要でした」と書かれている。つまり、この本は日韓の右派人脈の連携のもと韓国においては冷戦時代の「反共」独裁政権の美化と「親日派」擁護、そして日本においては歴史修正主義者の主張を「バックアップ」という一石二鳥を狙って出版された本である。

プロローグは「嘘をつく国民」「嘘をつく政治」「嘘つきの学問」「嘘の裁判」が蔓延する韓国社会の根



10・30大法院判決の原告の写真を掲げて
(日本製鉄本社前 2018.11.12)

底にあるのが「反日種族主義」であるとの書き出しから始まる。そして「嘘の裁判」では一昨年10月の大法院判決に触れて「裁判の原告は朝鮮人の舎監のもとで強制貯蓄させられ、その後舎監とともに元山に帰国したが、お金を預かった舎監がお金を返さなかった為に起こった民事事件であり、原告たちの嘘の可能性の高い主張を歴史を知らない法律家が国際人道主義を実現するという溢れるばかりの正義感と使命感で下した判決である」と、おそらく判決文・裁判資料も読むことなく自ら想像たくましくつくり上げたストーリーを一切根拠も示さずに事実であるかの

ように語る。そして自身の勝手な推測による「嘘」には目を閉ざす。その一方で彼は「客観的議論が許容されない不変の敵対感情をもつ韓国精神文化」が「種族主義」であり韓国人は日本の植民地支配が韓国の近代化に貢献した「歴史」に目をつむり「嘘」にまみれた「物資主義」を基礎とするシャーマニズムに支配されて日本を永久の仇と捉える敵対感情＝反日ナショナリズム＝「反日種族主義」に囚われていると主張する。

ねじ曲げた歴史の嘘の「総動員」

本論は「第1部 種族主義の記憶」「第2部 種族主義の象徴と幻想」「第3部 種族主義の牙城、慰安婦」の3部構成からなる。

まず第1部の「種族主義の記憶」では主に日本の「植民地近代化論」と日韓条約解決済論を展開する。落星台（ナクソンデ）経済研究所の李宇衍（イウヨン）研究員が「強制動員」の神話」「果たして「強制労働」「奴隷労働」だったのか？」「朝鮮人の賃金差別の虚構性」との3つの論文を掲載、戦時下に強制労働の事実はなく、賃金も正當に支払われ民族差別もなかったとの主張を全面展開する。彼は韓国国内では「慰安婦と労務動員労働者像設置に反対する会」「反日民族主義に反対する会」などの連名で「慰安婦像撤去と水曜集会中断を求める声明」を出して日本大使館前で毎週取り組まれている水曜集会への直接妨害行動を行った人物である。また昨年7月には「日本の立場から世界に向けて歴史論戦を展開し故ない歴史の非難から日本を護」るために設立された「国際歴史論戦研究所」が国連人権理事会に合わせて『朝鮮半島からの戦時労働者に本当は何が起こったのか？－軍艦島の真実』というシンポジウムをジュネーブで開催した時にパネリストとして招請された。シンポでは「韓国の人々は日本政府が第二次世界大戦時に朝鮮人を強制動員し日本企業で奴隷労働をさせたと主張しています。しかしこれは歴史的事実ではありません。日本人は韓国のこのような歴史を歪曲した反日プロパガンダによって、大きく名誉を傷つけられ人権を踏みにじられているのです。私達はその実態を世界に訴えるためにここに来ました。」との主催者挨拶に応じて「朝鮮人炭鉱夫の月収は他職種の朝鮮人や日本人に比べて高かった。賃金の民族差別はなく奴隷労働という「歪曲された歴史認識」が広がっている」と訴えて海を越えた歴史修正主義者の連帯の姿を示した。

日本政府は軍艦島を含む「明治産業革命遺産」のユネスコ世界遺産登録時の国際公約であったインタープリテーション計画に「強制労働」の記載を盛り込むための調査を「産業遺産国民会議」という一民間機関に委託した。しかしこの団体のホームページのトップは「真実の歴史を伝える端島島民の会を

応援しています」として「軍艦島の真実－朝鮮人徴用工の検証」という特設ページで強制労働はなかったとするキャンペーンを繰り広げている。そしてこの団体が政府に提出した委託報告書には李宇衍氏の執筆と推測される論文が掲載されているのである。安倍政権と日本と韓国の歴史修正主義者の三位一体の姿がここに見事に表れている。

第2部の「種族主義の象徴と幻想」では最初の「白頭山神話の内幕」で朝鮮民主主義人民共和国（以下「朝鮮」と略す）の建国神話批判から始まり「親日清算という詐欺劇」では盧武鉉政権下での「親日派清算」の取組みを批判して「親北派、従北派清算に力を注ぐべき」と主張し、金泳三政権時に日本の

植民地支配の象徴であった朝鮮総督府の建物を解体・撤去したことを「種族主義の極致を示す文化テロ」であるなどと植民地支配の「過去清算」を全否定すると同時に露骨に反朝鮮の立場から一面的な非難を行う。そして盧武鉉政権下の強制動員被害者への支援や大法院判決を「ネバー・エンディング・ストーリー賠償！賠償！賠償！」と題して揶揄し朝鮮戦争



の被害の賠償をなぜ朝鮮に要求しないのかと「ネトウヨ」バリの主張を展開する。

第3部「種族主義の牙城、慰安婦」では日本軍性奴隷問題をジェンダーの視点を全く欠落させた朝鮮半島における「公娼」制度の歴史の中に埋没させ朝鮮戦争時や米軍の性奴隷問題などと対比させて「相対化」を図り「慰安婦」問題の本質が戦時性暴力・女性への人権侵害であることを徹底的に覆い隠そうとする。そして過去の歴史を蒸し返して日韓関係を悪化させている団体が「挺隊協」（正義記憶連帯）でありその目的は韓日関係を破綻させることであると断定する。そしてエピローグにおいても「李承晩の自由論」と題する李承晩礼賛論を展開する一方で日本軍性奴隷被害者支援の運動は「少女像を誰も犯すこのできない神聖なトーテムだとするアマチュア社会学者と職業的運動家が巫女となって全国的に繰り広げる鎮魂グッ（慰霊祭）でありそこに全国民が動員されている」として韓国社会は「シャーマン」に操られる「種族主義」に陥っていると決めつけて女性であるがゆえに日本軍性奴隷として人権蹂躪された元「慰安婦」の権利回復の闘いに執拗に悪罵を投げかける。

過去の捏造を許してはならない

韓国での「ニューライト」の台頭と日本の歴史修正主義者の跋扈の問題は日本と韓国だけの問題ではない。世界的に貧富の格差が拡大し人々の不満が高まる中、アメリカのトランプ政権や欧州諸国でも移民排斥の右派政党が躍進し差別排外主義が蔓延している背景にはその国に住む人々のよって立つ「基盤」への自信の揺らぎを絡めとろうとする右派の共通の動きがある。私たちが未来に向けての選択を誤らないためにもこのような右派による「過去の捏造」を決して許してはならない。

この本の日本語版の帯には「歴史に嘘をつくことはできない」と書かれている。植民地主義克服の課題や自国の過去の負の歴史そして何より自ら受けた過去の人権侵害の回復をめざして必死で闘っている人々を貶める彼にこの言葉をそっくり返したいと思う。

第 13 回強制動員真相究明全国研究集会

「語いつぐ強制連行の歴史」

日 時 2020 年 5 月 23 日 (土) 13:30～17:30

場 所 富山県民共生センター(サンフォルテホール)

参加費 1000円(一般 1000 円 学生 500 円)

研究集会 (一日目)

開会挨拶

<富山の報告>

- ・地域から戦争と平和・人権を考える機会に『平和と人権とやまガイド』を作成して
富山県歴史教育者協議会 松浦晴芳
- ・黒部川電源開発と朝鮮人
コリア・プロジェクト@富山 堀江節子
- ・不二越女子勤労挺身隊訴訟 闘いの報告
不二越強制連行・強制労働訴訟を支援する北陸連絡会事務局 中川美由紀

<徴用工問題について>

- ・「韓国大法院「徴用工」判決後の課題」 強制動員真相究明ネットワーク会員 竹内康人
- ・「広島三菱徴用工被爆者・韓国訴訟の現状」 韓国の原爆被害者を支援する市民の会 市場淳子
- ・「名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟」
名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊訴訟を支援する会共同代表 寺尾光身
- ・「日鉄裁判の現状について」(仮) 日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 山本直好

<明治産業革命遺産について>

「明治産業革命遺産問題についてのこれまでの取組みと今後の課題」

強制動員真相究明ネットワーク事務局長 中田光信

<遺骨問題について>

- ・「朝鮮人遺骨問題」の現状と課題 ～各地の取組みに基づいて 福岡教育大学 小林知子
- ・「韓国で神岡鉱山労働者遺骨の遺族を捜す」 強制動員真相究明ネットワーク会員 下嶋義輔
- ・「地元宇部で朝鮮人青年の強制連行があった」 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会共同代表 井上洋子

<地域の取組み>

- ・「天理柳本飛行場説明板について」
天理・柳本飛行場跡の説明板撤去について考える会 高野眞幸
- ・「大阪空襲の朝鮮人犠牲者調査について」
大阪空襲 75 年朝鮮人犠牲者追悼集会実行委員会 川瀬俊治
- ・「石川県七尾港への中国人強制連行」 七尾強制連行への戦後補償を実現する会 角三外弘

質疑・意見交換

閉会挨拶

18:00～ 懇親会 会費 4000円

主催 強制動員真相究明ネットワーク

協賛 コリアプロジェクト@富山／クローバーの会

(連絡先) 〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (財) 神戸学生青年センター内

ホームページ: <http://www.ksyc.jp/sinsou-net/> mail mitsunobu100@hotmail.com 携帯 090-8482-9725

フィールドワーク（2日目）

5月24日（日）

9:00 富山駅集合 14:00 富山駅解散
コース 愛本堰堤～呂野用墓～
追悼碑～宇奈月ダム

※定員 50 名で締め切ります

※バスは富山駅に戻りますが、宇奈月からトロッコ
電車で樺平まで行くこともできます

富山県民共生センター サンフォルテ

〒930-0805 富山県富山市湊入船町 6-7

TEL：076-432-4500 FAX：076-432-5525



富山県内の朝鮮人労働者の足跡

黒部峡谷のダム・発電所のほか県内各地のダム発電所、河川改修、鉄道・道路敷設、富岩運河（富山駅北運河沿に軍需工場が多数あった）の造成、軍需工場建設に多くの朝鮮人労働者が従事しました。当時の塀が残る不二越富山工場には朝鮮女子勤労挺身隊 1,090 人が強制連行されました。また不二越・文殊寺地下工場跡、三菱重工・雄神地下工場跡などもあります。

※この時期は富山は観光シーズンということなのでホテルの予約が取りにくくなっています。早い目の予約をお願いします。

●また宿泊や観光のアドバイスが欲しいときは
とやま観光案内（076-431-3255）
に相談することもできます

時間のある方はぜひ訪れてみてはいかが？

●イタイタイ病～神通川上流・神岡の三井金属が
起こした公害で、まだ解決したといえないイ病です
が、記念する資料館があります。

イタイタイ病資料館

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1291/>

また富山は米騒動の発祥地です。また北前船の交易
が盛んな地域でもありました。魚津地域・滑川地域に
数多く史跡が残っています。詳細な地図は、当日発売
の『平和と人権とやまガイド』に掲載されています。

今年は 4 月 15 日から「立山黒部アル
ペンルート」も全線開通

< 参加申込みのご案内 >

◎参加申込みされる方は「事前申込」をお願いします

◎集会・懇親会・フィールドワークいずれに参加するかを明記の上

FAX 075-641-6564 又はメール mitsunobu100@hotmail.com へ

◎申込締切 2020年5月10日（日）

※フィールドワークについては定員（50 名）になり次第締め切りますので
早目にお申し込みください。

※ 開催予定日前後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、集会・フィールドワークの延期も考えられますので、その場合は真相究明ネットのメーリングリストで事前にお知らせします。